

～たけのこ～

親交のある大分県の子ども園さんが毎年たけのこを送って下さいます。皮むきをして茹でて頂きました。匂いの味を満喫しました！当園からはお返しに畑の「のらぼう菜」をお送りしました！



～春探し～



園庭では様々な場所で春探しが行われています。カマキリの卵から幼虫が何十匹もでてくる様子。虫めがねで見るとお花の美しさ。特に年中さんはこの虫めがねに興味を駆り立っています。四季折々の自然に触れ、たくさんの発見をしていくことでしょう。

～里山の萌芽更新～



進級園児さんには以前もご紹介しましたが、森の広場から続く「八王子市の森」、この一区画の樹木約50本を3月に伐採しました。里山の樹林が高齢化し、次の若い樹林を形成するために必要な萌芽更新と呼ばれる物です。本来15～20年おきに行われますが、更新作業が行われてこなかったため、樹齢60年以上の巨木も見られます。一帯に木が無くなり寂しさを感じますが、一方では日が差し新芽が喜んで伸びゆく様子もみられ、人と自然とが関わり合い形成してきた里山本来の姿に戻りつつあることを実感します。こうした様子を年長さんは間近に観察しています。切り株に手を当て年輪を数え、萌芽を探します。この里山には「生きた教材」が無数にあります。見て、触れて、感じて、考えて、調べて、話し合う・・・「学びに向かう力」の基礎を、遊びや体験を通して育てているのです。

～年長 園外保育 長池公園～



年長さんは長池公園に。ここは前述の「萌芽更新」が随分前に行われた里山の公園。伐採したゆりかごのまわりの森が将来どのような姿になるのを見に行き、教えて頂くこともねらいの一つでした。余談ですが、レクチャー頂いた長池公園の園長さんも「内野」と言う方で、当園園長と「遠縁かもしれない」とのことでした。びっくり！

～年長 お米作りスタート「種もみ選び」～



森のステージに集まり、8ヶ月にわたるお米作りがスタートしました。昨年とっておいたお米の種もみを選別し、水槽に卵が浮くぐらいの塩水を入れたらそこに種もみを入れます。水に浮いた種もみは使用せず、沈んだ種もみを使用します。理科の実験のようですが、子ども達は塩を入れることで卵が浮く様子に、「マジックだ!」と驚きの様子で観察しています。水に沈んだ種もみは真水につけて数日間芽出しをし、育苗箱に蒔いていきます。こうして稲作の地道な作業が続いていきます。

～香港の幼稚園の視察～



香港にある幼稚園4園の先生約100名が2日間に渡り視察に来ました。入園間もない年少さんが電車ごっこをしながら列になり楽しそうに園庭めぐりをしている様子を、驚きの眼差しでご覧になっていました。香港ではこの状態に至るまでにかなりの日数がかかるそうです。また、「ビオトープ(生き物のすみか)」という言葉・教育的意味がまだ浸透していないようで、カエル池で生き物と触れ合う年少さんを興味深く見ていらっしゃいました。毎月のように様々な国の幼児教育関係者が視察に見えますが、私たちも様々な気付きを与えられます。互いの文化を理解し合う「多文化共生」という観点からも、園児、教師両方の国際交流が図られることの重要性を感じます。